

あなたが選んだ生ごみ処理方法は こちらです! ぜひ、チャレンジしてください。

生ごみ家庭内処理方法の比較表

おすすめ 処理法 項目	A 庭や畑に埋める	B コンポスト容器	C 段ボール箱	D プランター 発泡スチロール	E 手動式生ごみ処理器	F 電動式生ごみ処理機
形状						
庭	必要	必要	不要	不要	不要	不要
手軽さ	◎ (とても手軽)	○ (コツがいる)	○ (コツがいる)	○ (コツがいる)	○ (コツがいる)	◎ (とても手軽)
におい	◎ (ほとんどない)	◎ (ほとんどない)	○ (通常はない)	○ (通常はない)	○ (通常はない)	○ (通常はない)
虫	◎ (わきにくい)	△ (わくこともある)	△ (わくこともある)	△ (わくこともある)	△ (わくこともある)	◎ (わきにくい)
費用(初期)	◎ (0円)	○ (約3千円~ 市の補助金制度あり)	◎ (0円)	◎ (0~数百円)	△ (約2万円 市の補助金制度あり)	△ (約2万~約8万円) 市の補助金制度なし
(維持費)	◎ (0円)	◎ (0円)	○ (0~年間数千円)	○ (0~年間数千円)	△ (年間約1万円)	△ (年間約1万円)
長所	●場所さえあれば、穴を掘って土と混ぜるだけなので簡単 ●においや虫が発生しにくい	●大量の生ごみ処理が可能	●身近な素材で取り組める ●通気性に優れているため水切りをあまり気にしなくてもよい	●身近な素材で取り組める ●古い土を再利用できる	●電気代がかからない ●かき混ぜるのが簡単	●熱乾燥させる「乾燥型」と、堆肥にする「バイオ型」があり、どちらも手軽にできる
留意点 問題点	●魚などを入れると猫などの動物が来やすい ●水はけが良いこと ●土とよく混ぜる ●日ごとに埋める場所を変える	●なるべく日当たりの良いところへ埋めて設置する ●フタをしても虫が発生するので工夫が必要	●雨のかからない場所に置く必要がある ●虫が侵入しやすいので対策必要 ●生ごみは全体の2割までとする	●通気性が悪い ●隅に水がたまり臭いや虫の発生原因になりやすい ●容量が小さい場合は複数個必要 ●生ごみは全体の2割までとする	●電動式よりは価格が安い ●生ごみの投入量が多くなると、ハンドルが回りづらくなる	●価格が高い ●電気代がかかる ●電気を使い、CO ₂ を増やす ※現在日野市では、上記の理由などから電気式生ごみ処理機は補助金の対象外となります。
解決策	●動物よけに金網をかける ●魚などを入れない	●腐葉土や乾いた土を入れて水分調整をする	●箱の継ぎ目や隅にクラフトテープを貼る ●フタは古布などをかけてゴムで止め、虫の侵入を防ぐ	●生ごみの水分をよく切り、毎日底からしっかりと混ぜる ●通気性のよい古布などでフタをする ●水分吸収のため新聞紙を載せ、毎日取り替える	●ハンドルが回りづらくなったらチップ材(発酵促進基材)を換える(約4ヶ月が目安)	

④発酵と腐敗の違いとは?

- どちらも微生物による有機物の分解過程のことで、明確な違いはありません。分解の結果、人間にとって有用なものを発酵、そうでないものを腐敗と呼んでいます。
- 生ごみも腐敗すると硫化水素やアンモニアなどの悪臭を放ち、それが虫を呼ぶ原因となりますが、発酵しやすい条件を整えることで、いやな臭いを発生させずに堆肥化することができます。

⑤虫が発生したら?

- 容器の隅の通気の良いところに発生しがちです。かき混ぜる時はとりわけ四隅を丁寧に混ぜるようにして水分が溜まらないようにしましょう。
- ほとんどが生ごみを好むアメリカミズアブという黒い虫です。水分を少なくし、米ぬかを2~3握りくらい入れ、50~60℃の温度にすれば死滅します。



アメリカミズアブ(成虫)▶

⑥いやな臭いが出たら?

- 全体的に水分が多いことが原因です。もみがらクンタンや腐葉土、竹パウダーなどを入れてよく混ぜましょう。
- 生魚などは臭いが出やすいため、熱湯をかけてから入れるか、慣れないうちは入れない方が無難です。

⑦分解が遅い時は?

- 発酵促進剤(EMボカシなど)を生ごみにまぶしてから投入すると分解が早い。
- 微生物が好む米ぬかを2~3握りくらい入れてよく混ぜる。
- 水分過多の場合は腐葉土や竹パウダーなどを投入する。
- 冬季などの低温時は、微生物の活動が低下して分解が遅くなります。暖かい場所に置き、毛布を掛けて保温するなどの工夫を!

全種類に共通の7つのポイント

①入れてはいけないもの

- 人間が食べられないような食材
- 貝殻
- 大きな骨(卵やカニ殻は砕けばOK)
- ジュースなどの液体
- 大量の油(天かすなどはOK)
- 腐った生ごみ

②生ごみと混ぜるもの(床)

生ごみを入れる前に、下記のを適当に混ぜあわせて容器の8割くらいまで入れて床(とこ)を作りましょう。処理器の場合は付属の基材がありますが、竹パウダーでも代用できます。

- 腐葉土 ●黒土、培養土、古土などの土 ●米ぬか
- 竹パウダー(最近話題の竹の粉。竹自体に発酵菌が豊富に付着しているため、竹パウダー単独でもよく発酵します。入手先はごみゼロ推進課までお問い合わせください)

③発酵に最適な水分は約60%

生ごみの80~90%は水分です。生ごみを腐敗させないためには、堆肥化途中の水分を約60%(手で握って開いた時にそのままの形が残る程度)に保つことが大切です。



市民のページ 知恵袋

ごみ減量推進市民会議が企画・編集したコーナーです。

ごみ減量推進市民会議とは、「日野市ごみゼロプラン」を実行に移していく会議で、市民約20名で構成されています。

Part 20

※今回の企画(1~3面)は、「生ごみリサイクルサポーター連絡会」の協力のもとに作成しました。